



医療法人みずほ会

小規模多機能型居宅介護事業所 (プレゼンテーション)

～ 一人ひとりの笑顔のために ～

医療法人 みずほ会

医療

- 須崎医療クリニック



介護複合施設ケアビレッジすさき

- グループホームすさき
- ケアビレッジすさき通所リハビリテーション
- 居宅介護支援事業所



グループホーム

- シルバーホームおおの郷



グループホーム

- グループホームなかとさ



●●●● 関連事業 ●●●●

サービス付き高齢者向け住宅

- NPO 法人 ラ・シャリテ 中四国支部
- シニアマンション松山・土居田町
 - シニアマンション松山・西長戸
 - シニアマンション松山・清住
 - シニアマンション松山・高岡町
 - シルバービュー松山・衣山
 - シニアマンション伊予・下吾川 I



松山広域エリア

土佐市エリア

介護複合施設ケアビレッジとさ

- 介護付き有料老人ホームケアビレッジとさ
- デイサービスケアビレッジとさ
- 居宅介護支援事業所ケアビレッジとさ



介護付き有料老人ホーム

- ケアビレッジたかおか



グループホーム

- グループホームたかおか



須崎広域エリア

医療

- 朝倉医療クリニック



介護複合施設ケアビレッジあさくら

- サービス付き高齢者向け住宅ケアビレッジあさくら
- 居宅介護支援事業所ケアビレッジあさくら



- 看護小規模多機能ホームあさくら
- グループホームあさくら



- ケアビレッジあさくらデイサービスセンター
- ヘルパーステーションケアビレッジ



高知市エリア

●●●● 関連事業 ●●●●

社会福祉事業

- ケアハウスすさき



給食・配食サービス

- イーフード株式会社
- 給食・配食サービス



介護スクール

- 日本イーライフ株式会社
- みずほ介護スクール



サービス付き高齢者向け住宅

- NPO 法人 ラ・シャリテ 中四国支部
- シニアマンション高知・鴨部



1・基本理念



法人理念

み 未来に続く笑顔のために

ず ずっと寄り添い愛される法人となり

ほ 誇りを持って医療と福祉サービスを提供します

法人理念に対する考え方

- ① 私たちみずほ会職員は、介護が必要になった方の在宅生活を守るために、その人を中心とした介護を行い、QOLの維持・向上に努めます。
- ② 私たちみずほ会職員は、利用者様のその人らしくを追求するため、常に利用者視点に立ち、本人・ご家族の悩みと向き合い、多職種協同で支援を行っていきます。
- ③ 私たちみずほ会は、地域に根付いた医療・介護事業所となるように、地域貢献をすすめていきます。

小規模多機能型の応募動機

1. 私たちは小規模多機能型居宅介護事業所を通じて、介護レベルが中重度になっても、「自宅で住み続けたい。」という方々の希望に応え、『通い』『訪問』『宿泊』サービスを行う事で在宅での生活の継続を支えたい。

2. 利用者の方々の個人の尊厳を守りながら、家庭的な環境と地域住民との交流の中、利用者の方々の有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう、安心できる生活を支えたい。そして医療・介護連携により最期まで在宅での支援を提供したい。

地域密着型サービスの考え方

認知症高齢者や要介護高齢者が、介護度が重くなっても、住み慣れた地域でいつまでも生活できるように医療・介護・地域で支えて行く。



**地域密着型サービスを行う上での必須の取り組み。
私たちは地域包括ケアシステムを理解し、サービスを実施します。**

2・地域資源とは？

「地域住民」が「住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるための安全・安心・健康を確保するための多様なサービス」



そのために

私たち、みずほ会グループの職員は医療・介護の専門職の集団である。その集団が連携して、介護が必要な地域住民の方々を守っていきたいと考えています。

3・地域連携・協働体制への取り組み

わたしたちは高齢者一人ひとりの状態の変化や生活の場所が変わっても、継続した支援を提供できる力・体制を整えることを目標にしています。

●あさくらエリアでの実施状況～

- ・小中学生、高校生、金融機関、消防署、警察署との連携
- ・「認知症サポーター養成研修・認知症サポーターステップアップ研修」の受け入れ
- ・ボランティア受入(笑顔マイレージ)
- ・自主防災組織への協力
- ・近隣の保育園、学校との交流
- ・サロンの開催
- ・地域行事の開催など

更に体制を拡充していきたいと考えています。

2・非常災害に対する地域連携

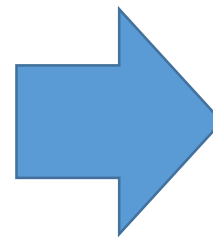


防火訓練・避難訓練・災害訓練の実施

避難訓練風景



運営推進会議での 反省・意見交換



防火訓練・避難訓練・災害訓練の実施

事業所の工夫

- 訓練の計画的な実施
＝ 避難訓練(2回)、災害訓練(1回)、津波訓練(4回)
- 3日間耐えうる備蓄
- 朝倉地区防災連合会との連携
＝ 運営推進会議での情報共有、訓練への参加など
- 地域に協力してもらっただけでなく、地域のために協力できる施設を目指す。

3・4サービスの質（個別処遇） （事業所全体）



●みずほ会が目指すべき方向性

①利用者の基本的人権を尊重した介護を展開



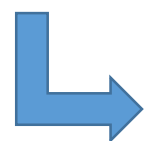
尊厳の保持、自立支援の実施

②多職種連携による、利用者の看取りまでの継続した支援



医療介護連携、家族支援

③地域連携、地域貢献を図る



**防災、災害時の協力、集いの場の提供
、地域行事の実施**

自立に向けた考え方

自己決定の権利

今自分がしたいこと、これからしようと考えていることを自分で決める権利

- 食事
 - 着替え
 - 過ごし方
 - 入浴
 - 睡眠
- など様々・・・

介護現場ではどうなのか？
そもそも生活の選択肢はあるの？

「専門職として考え支援する」

なぜ自己決定を 支援しなければならないか？

介護保険法第1条

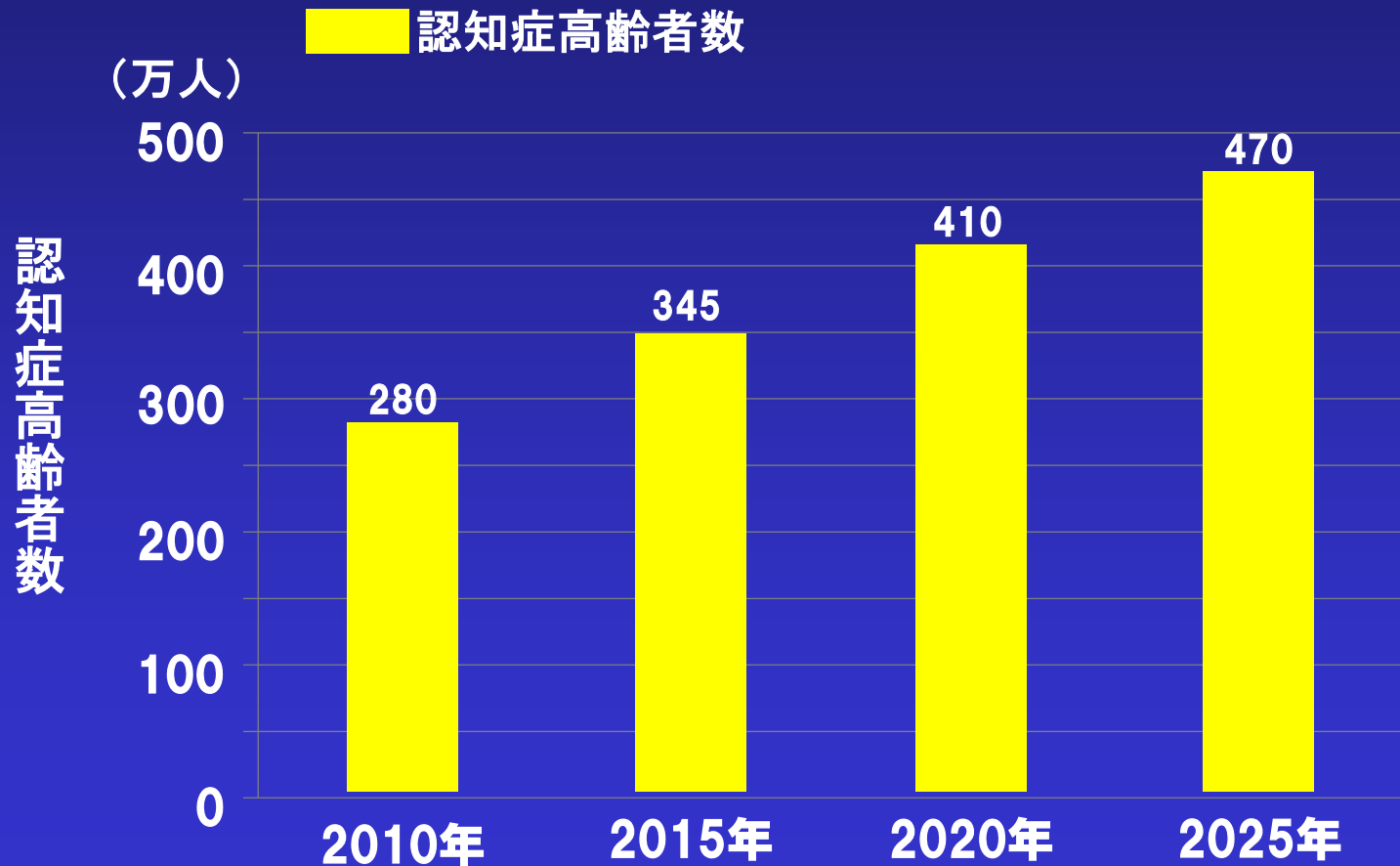
この法律は、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により**要介護状態**となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者がその**有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付**を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。



認知症患者数の将来推計

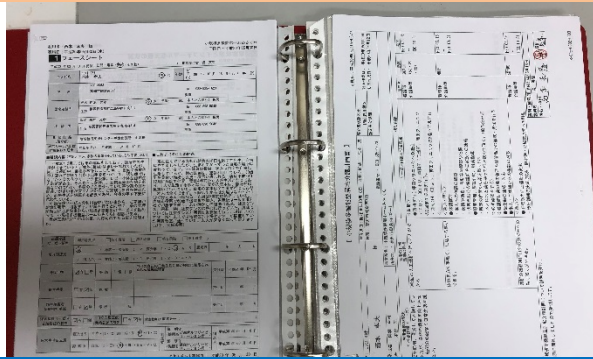
日本は高齢者の割合が増加傾向にあるため、認知症高齢者数は2010年で280万人、2012年で305万人、2025年には470万人と急激に増加していく見込み

日常生活自立度Ⅱ以上の高齢者数の推計



具体例1・・・認知症の進行防止に向けた取り組み

ケアカンファレンスの風景



『その人らしく』の追求



常に大事にしているのは、利用者の事をチームで考え本人・ご家族の気持ちに答える支援を行う事。

■事例紹介

●A氏、92歳、女性、要介護4

●診断名 アルツハイマー型認知症、高血圧症、褥瘡Ⅳ度

●処方薬：タケプロンOD錠、ダイアート錠、ロナセン錠、マグミット錠、セロクエル錠、レンドルミン錠

●日常生活自立度：B2

●認知症高齢者の日常生活自立度：Ⅳ

●生活場所：サービス付高齢者向け住宅（ケアビレッジあさくら）

●家族からの希望：本当の自宅に戻るとは困難ですが、出生地であるB市のC地区で生活ができています。ここが母の終の棲家となれば良いと思います。起きている時間でも、その場で寝ているように感じる事があります。認知症になる前のように皆さんと話したり、遊んでいる姿を多く見たいです。

●長谷川式簡易知能評価スケール = 8点

●看護小規模多機能居宅介護事業所のサービス：

通い、訪問介護、訪問看護(すべて毎日利用)

■認知症の利用者様が安心できる状態ってなんだろう？（ケアプランの作成時に常に考えなくてははいけません。）

チームアセスメント力を活かし、段階的な目標設定で利用者様・ご家族の望む生活を目指します。（具体的なケアプラン作成）

● 馴染みの関係・信頼関係作り
➡生きがいのある生活

● 夜間の過ごし方工夫
（夜間睡眠時間の確保）

● 眠剤・抗精神薬の減薬





实践風景



● 馴染みの関係・信頼関係作り→生きがいのある生活

※利用者様の居場所を作り、他者と過ごしやすい環境を考えます。



そうすることにより

- ① 日中の傾眠する姿が少なくなります。(利用者の楽しみが見つかります)
- ② 関係性の把握を行ったことで、席の位置など環境調整ができるようになります。

ルーティンワークの中には個別ケアやコミュニケーションの支援が必要です。

具体例2・・・重度化及び看取りに対する支援の体制 食や排泄の自立、歩行改善などへの取り組み

■事例紹介

●A氏、99歳、女性、要介護4

- (1) 診断名：**アルツハイマー型認知症、偽膜性腸炎**、ビタミン欠乏症、左変形性膝関節症
- (2) 入院期間：平成29年3月14日～平成29年4月9日(偽膜性腸炎の治療のため)
- (3) 家族構成：次男(キーパーソン)夫婦と同居、三男様夫婦が同一敷地内に居住。
- (4) 介護状況：次男の妻は仕事中に右足を火傷、現在も右足が十分に動かず介護は困難な状態。三男様夫婦が同一敷地内に居住しているが介護への協力はなし。
自宅では次男のみでの介護。
- (5) **FAST=stage7(退院時)**
- (6) 認知症高齢者の日常生活自立度：Ⅲa(入院前)
- (7) 障害高齢者の日常生活自立度：B1(入院前)
- (8) 小規模多機能居宅介護事業所のサービス利用(入院前)：通い週5回
小規模多機能居宅介護事業所のサービス利用(退院後)：通い週7回、宿泊7回

■生きがいのある生活に向けて (退院直後の姿)



■ご家族が在宅復帰のために小規模多機能型に臨んでいる事

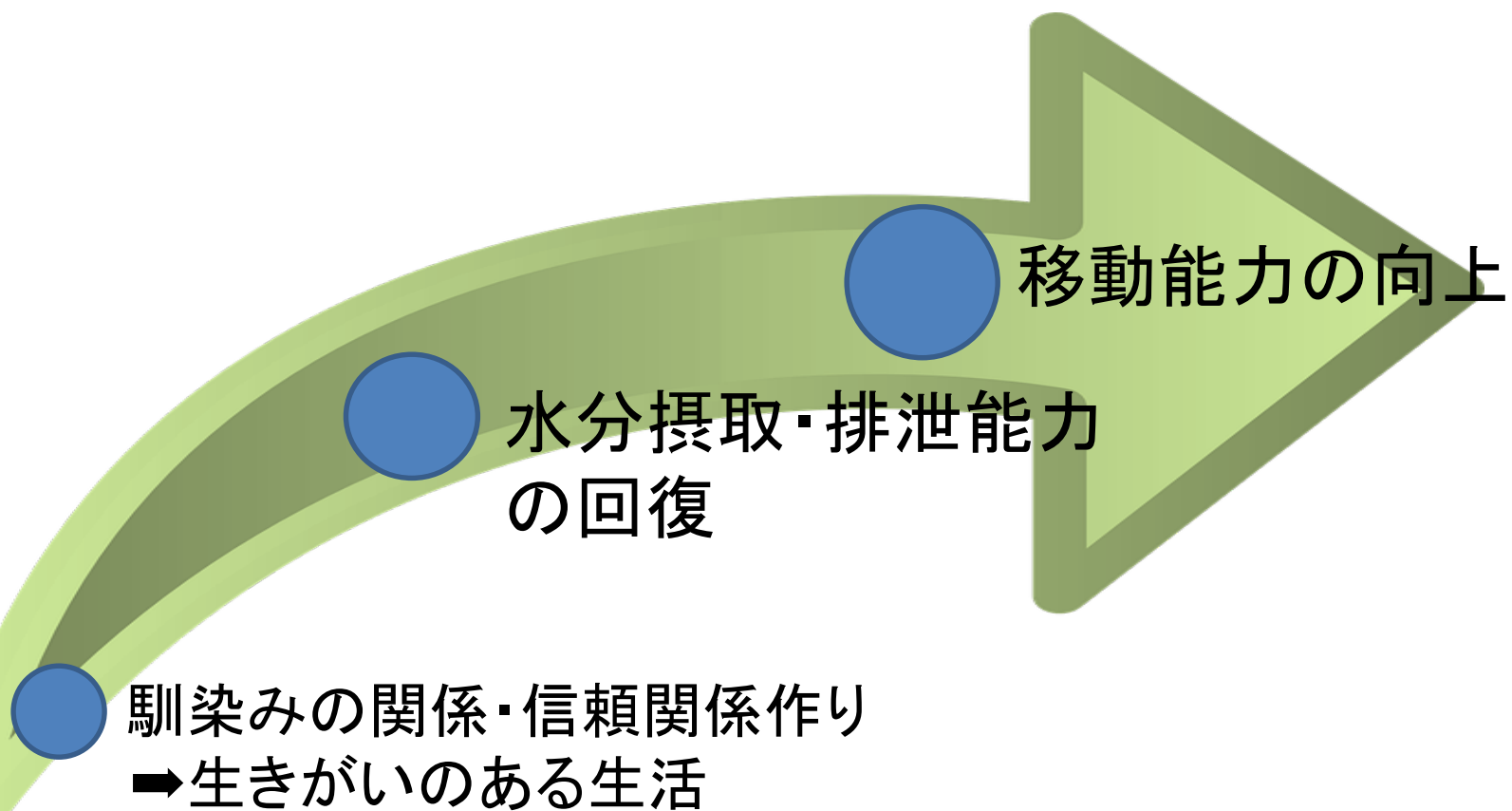
★本人の意向(退院直前):

私はいつ自宅に帰れるのでしょうか？ **早く帰らせて下さい。**

★家族からの在宅生活継続に対する意思を確認(退院直前):

ここまで自宅で介護して来た。できる事なら**100歳となる8月には自宅に帰り一緒に過ごす時間を持ちたい。**入院生活が長くなった影響で歩けなくなった。トイレに行く事が分からずにおむつを触り、布団まで漏らしている状態が続くと自宅での介護は難しい。長く関わりを持ち支援をして頂いている小規模多機能型で自宅に帰れるくらいまで体の状態を改善してもらいたい。

在宅復帰に向けてのステップ





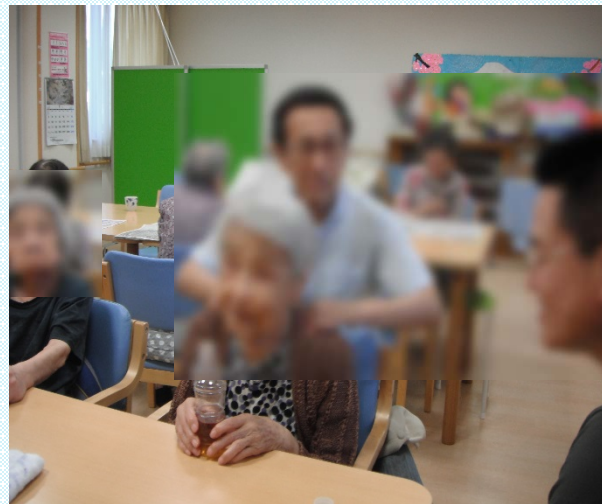
実践結果



★生きがいのある生活に向けて (実践)



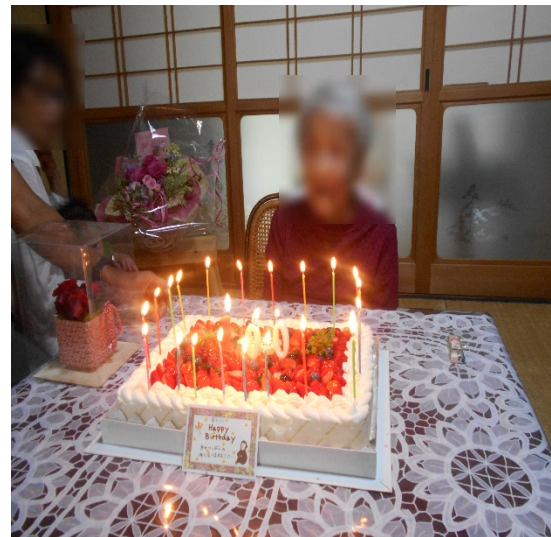
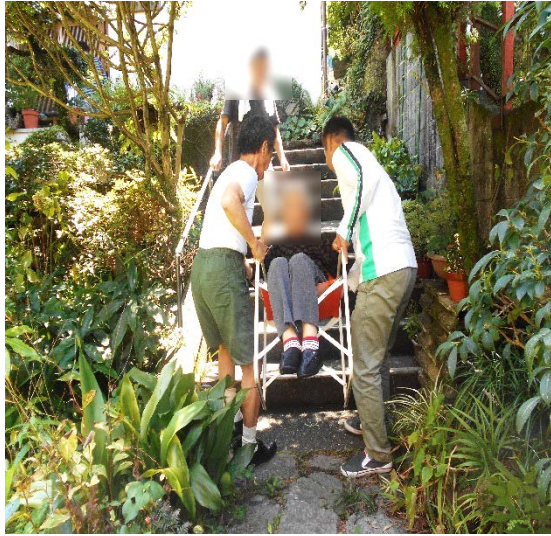
★生きがいのある生活に向けて (実践)



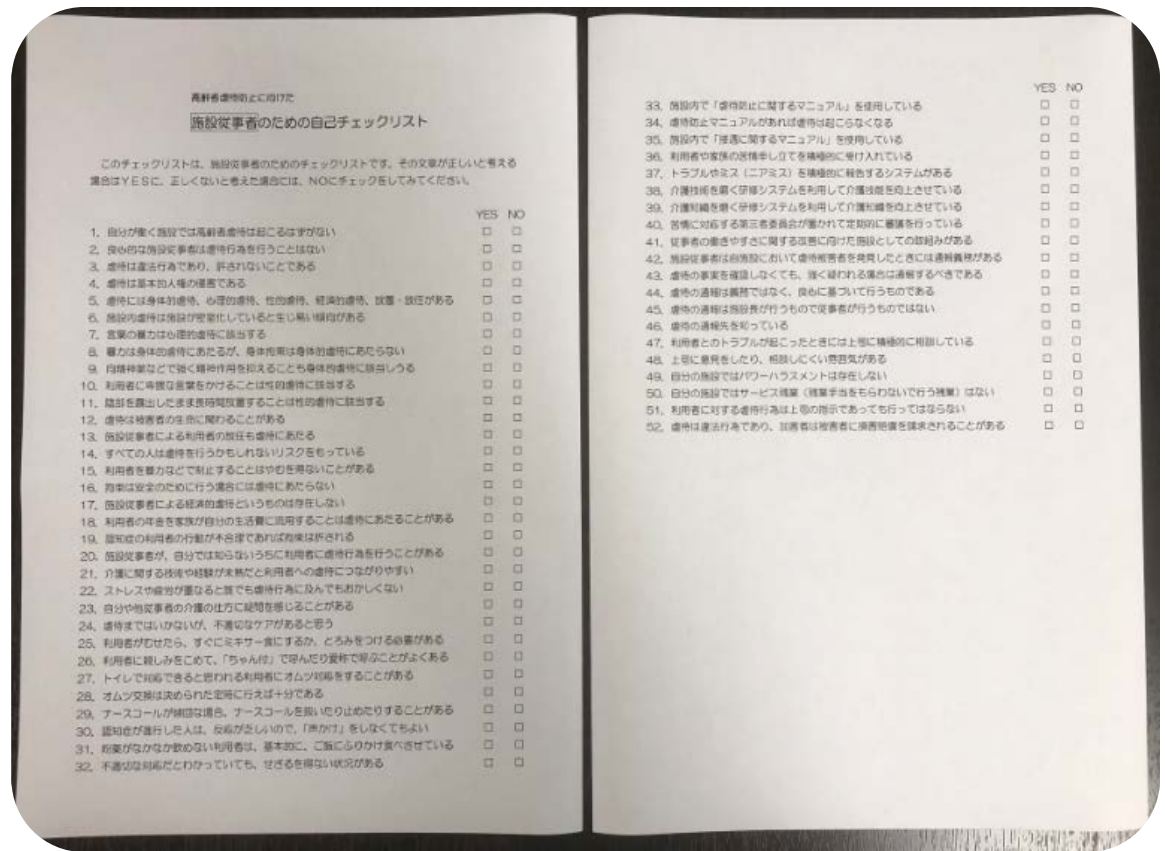
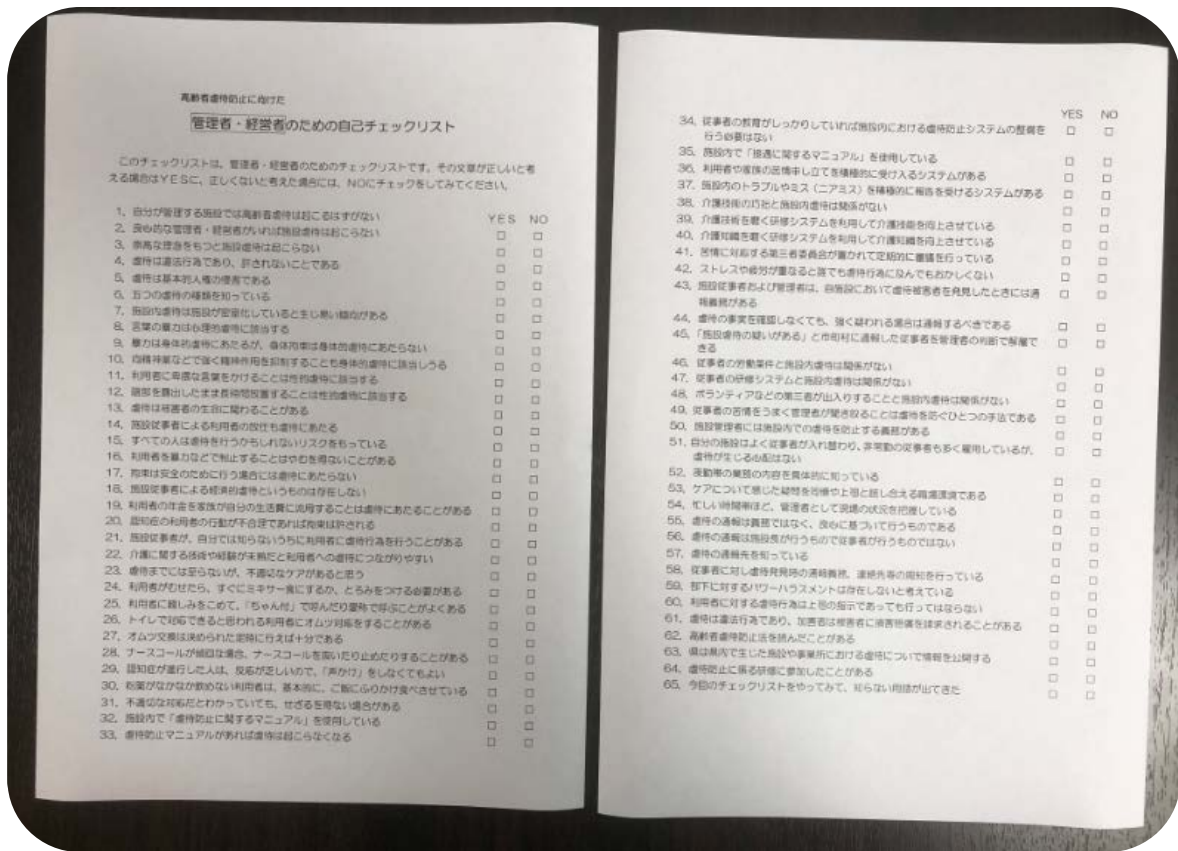
★リハビリ実施状況



★在宅復帰



高齢者虐待防止、早期対応への取り組み 身体拘束廃止に向けた取り組み



自己チェックリスト

管理者・リーダー用

職員用

●管理者用、施設従事者用の自己チェックシートを活用
(軽微な不適切ケアの早期発見をして、対策している)

●自己チェックシートを使用して、スタッフ会などで現場での
気づきを増やす。(チェックシート以外の不適切ケアの場面
を多く出し合う)

●OJTやOFF-JTの活用
(年間各施設で2回勉強会を行っている)

●身体拘束適正委員会を実施(現場の介護方法などの確認
みずほ会のケア方針を徹底する)

家族、地域住民やボランティアとの日常的な交流の取り組み

①町内会、朝倉地区防災組織との連携
＝運営推進会議での情報共有、
地区会への参加など

②朝倉小学校、朝倉中学校との連携
＝ボランティア協力、運動会などの見学

近隣の側溝愛護作業



施設納涼祭に参加された中学校吹奏楽部



地域活動の風景

高齢者サロンの開催



イベント開催




地域交流



みずほサロンは・・・参加費・無料です！！
毎月第4火曜日（13:30～15:30）にオープンします。

みずほサロンとは？

- ①ゆっくりくつろげる
- ②おわくわく話し相手がいる
- ③色々な体験や学習ができる
- ④気軽に相談ができる



衛生管理・感染症対策

感染症予防

- ・整理整頓を心掛け、清掃(換気、清拭)を行い、事業所内の衛生環境を清潔に保つ
- ・マニュアル(感染症・食中毒等)に沿った感染対策の実施

感染症管理体制

- ・感染症対策委員会を設置
- ・感染対策委員会を年に1回または、適宜に開催し、施設内感染対策を検討しマニュアル改定
- ・事業所内での問題点の把握と課題解決を検討する。
- ・感染症発生時の感染対策の指揮をとる。

職員研修の実施

- ・感染予防のため、衛生管理・感染症対応マニュアルをもとに年2回、職員に対する教育研修の実施

苦情受付体制

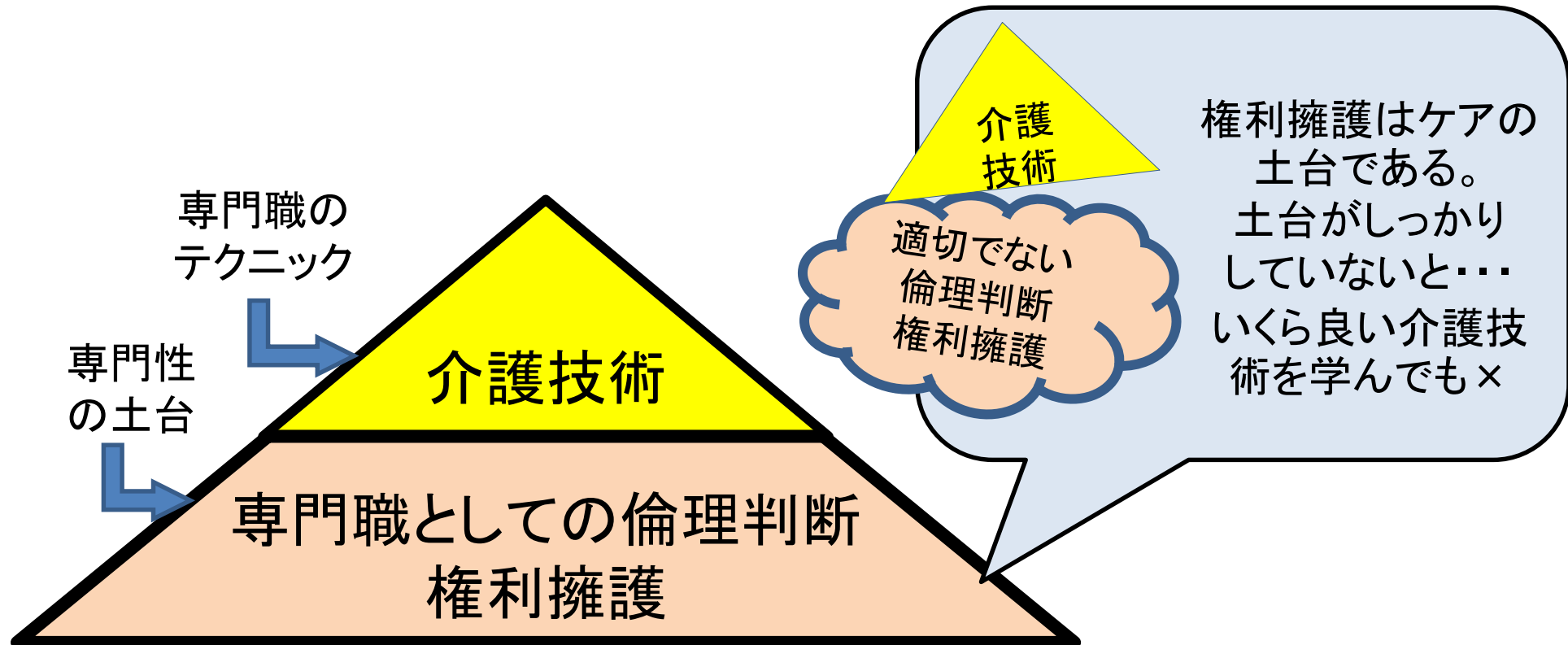
- 訪問（モニタリング含む）、通い送迎時の情報交換
＝本人・家族との信頼関係作り
- 意見箱の設置
＝意見が出しやすい環境作り、検討会の実施
- 通い・訪問・宿泊サービス利用時間のご家族の現場確認
＝連絡なしでの現場確認で、サービスの質を確認して頂く。

自分たちのサービスの質を常に向上させるために、
ご意見を多く頂く事を考えます。

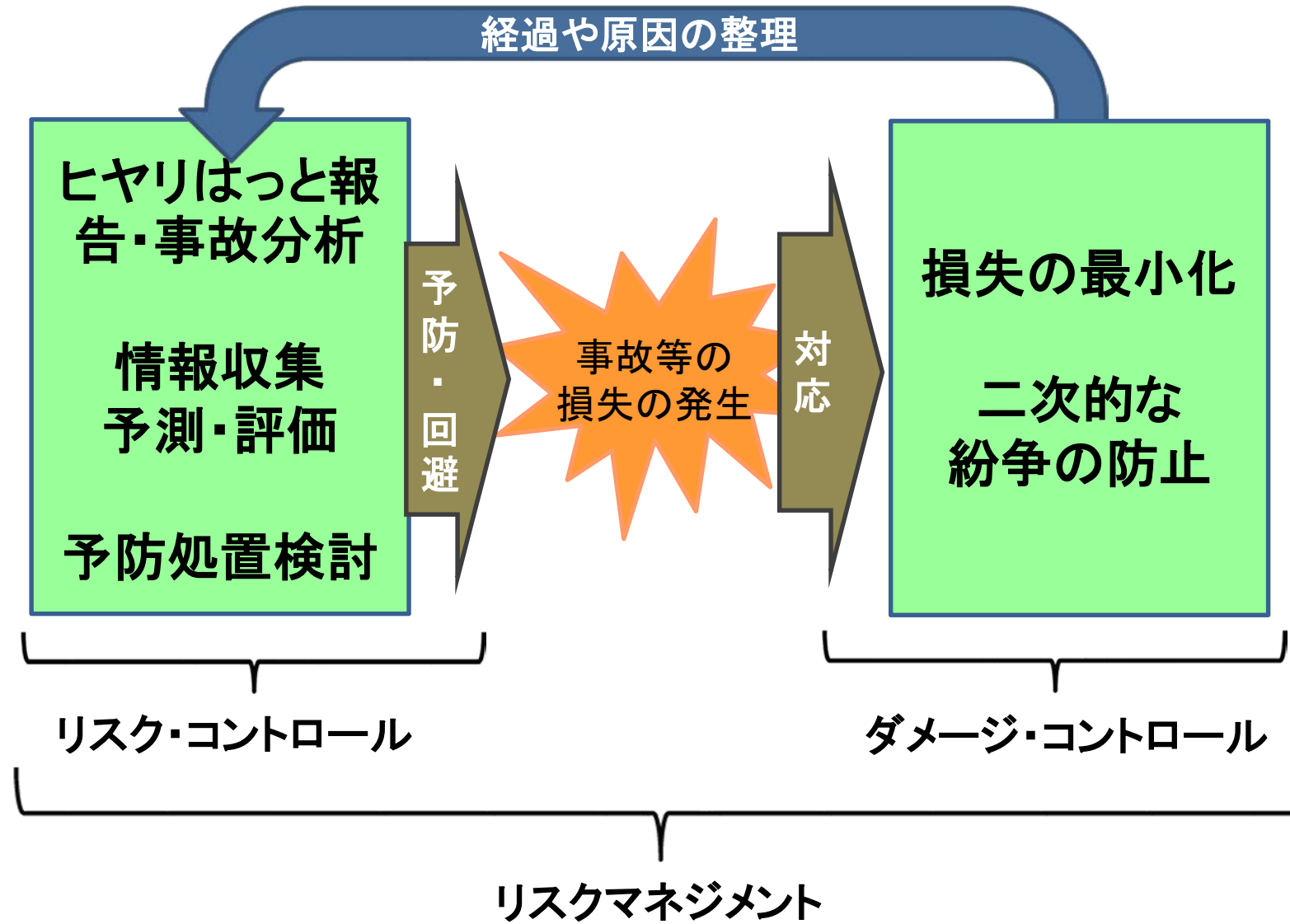
事故防止への取り組み

権利擁護とリスクマネジメントは表裏一体

専門職として、適切な倫理判断を行いながら利用者の権利擁護を土台に専門性を発揮する。(事故防止対策の実施)



◎リスクマネジメントの概要



■ 事故防止対策を考える時

- ① ヒヤリハットの提出は、悪いことではないことを職員周知する。
- ② 危険予知からのヒヤリハット提出ができるように繰り返し説明をする。
(勉強会などで危険予知訓練を行う)
- ③ 職員側のストレスケアも含めた、事故対策を行う。
- ④ 毎月の提出目標を定める。また、ヒヤリハット分析を毎月行う。

事故・インシデント(ヒヤリ・ハット) 報告書

管理者		介護主任		記入者		記入年月日	年 月 日 ()	
利用者	(フリガナ)			年齢		要介護度		
	氏名						-- --	
ヒヤリハットの概要	日時	令和 年 月 日 () 時 分				(状況図)		
	発生場所							
	ヒヤリハットの種類	<input type="checkbox"/> 骨折 <input type="checkbox"/> 出血 <input type="checkbox"/> 火傷 <input type="checkbox"/> 誤嚥 <input type="checkbox"/> 異食 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> けが <input type="checkbox"/> 誤与薬 <input type="checkbox"/> 無断外出 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 感染症 <input type="checkbox"/> 死亡						
	ヒヤリハットの内容 (具体的に)							
	ヒヤリハットへの対応							
	そのときの自分の状況	① 忙しさの感覚は？ 落ち着いている 5・4・3・2・1 忙し						
	② 健康状態は？ 良い 5・4・3・2・1 良くない							
	③ 精神状態は？ 良い 5・4・3・2・1 良くない							
	④ 勤務パターンは？							

利用者の生活の質向上のための具体的な取り組み

- サービスの質を落とさないことが重要。そのためには、チームケアを行うため、常に職員が働きやすい環境であることが必須。**(風通しの良い職場環境)**
- チームでアセスメント行い、利用者の個別支援を考えていくことが重要。**(個別性のあるケアプラン作成)**
- 医療法人である利点を生かした、看取りケアの実践
- 事故防止対策や職員のスキルアップが重要

まとめ

笑顔になるポイントはひとそれぞれ

利用者の在宅生活継続

QOL向上のフロー

個別ケアの実施
家族支援の実施
多職種連携
地域との協力体制の構築

法人理念に沿った支援を展開して、利用者様のニーズに答えていきます。

5・安定した事業所の運営に向けて



①事業所の広報、利用者確保

- ・広告、チラシなどの配布
- ・ホームページを開設
- ・老人保健施設、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟、介護医療院などを設置している社会福祉法人、医療機関の相談室や地域医療連携室等との連携

充実の介護サービスを安心の定額料金でご利用いただけます。

小規模多機能ホームふくいのご紹介

安心して何度でもご利用頂ける
小規模多機能ホームふくいの定額制度

※各種加算・宿泊サービス・食費・おむつ代等別途費用が発生します。詳細については、直接担当者にご確認ください。

	デイサービスと訪問介護 ご利用の場合	小規模多機能ホームふくいを ご利用の場合
要介護1	16,765円/月額(満額利用) +超過分全額自己負担	10,934円/月額(定額制)
要介護2	19,705円/月額(満額利用) +超過分全額自己負担	16,070円/月額(定額制)
要介護3	27,048円/月額(満額利用) +超過分全額自己負担	23,676円/月額(定額制)
要介護4	30,938円/月額(満額利用) +超過分全額自己負担	25,799円/月額(定額制)
要介護5	36,217円/月額(満額利用) +超過分全額自己負担	28,447円/月額(定額制)

デイサービスや訪問介護等、満額利用よりお安くご利用いただけます。
表示価格は利用者自己負担額(1割)です。

小規模多機能ホームふくいは
『通い』を中心とした介護サービスを提供します。



ご利用者さまの状態やご希望により、ご自宅に訪問介護致します。

どれだけ多くの介護サービスをご利用頂いても **安心の定額制**

お気軽にお電話でご相談ください。

高知県高知市福井町 450-1

☎ 088-802-7782

小規模多機能ホームふくい 【本部事務所】

詳細はこちらから⇒

<http://www.kochi-mizuho.com>

スマホで
道案内

②-1. 職員確保

- ・高知県全域において、高校新卒者、無資格・未経験者、高齢者、障害者等の雇用
- ・外国人など幅広い労働人口に対して、求人活動を積極的に展開する。
- ・知識と技術の習得・向上の為の研修を実施、職場環境を整える。(スクールの活動)
- ・求職訓練、県の研修事業へのなどへの講師の派遣。



②-2職員確保

離職理由

- ・家族の看病のため
- ・自身の体調不良のため
- ・自分に向かない仕事だった

職員状況

- ・育児中 短時間職員 2名
- ・看護休暇取得中 1名
- ・特定技能実習生 2名
- ・定年後再雇用 3名

令和3年 8月現在

	①		②	②÷①
	職員数	入職	退職者数	離職割合
19年度	7	3	0	0.0%
20年度	17	7	2	11.8%
21年度	18	5	3	16.7%



③-1 サービスの質の確保、職員の人材育成

- ・内部研修の定期的な実施・外部研修への参加及び事業所内での周知
- ・ケアに係る知識・技術向上等に関する内部研修の実施
- ・外部研修への参加(勤務扱い)と参加者から事業所への伝達講習



③-2サービスの質の確保、職員の人材育成

- ・職員の資格取得支援についての取り組み
(関連法人での実務者研修の開催や資格取得費用の支援)
- ・高知県認証評価制度の取得
(令和4年を目指し現在進行中)



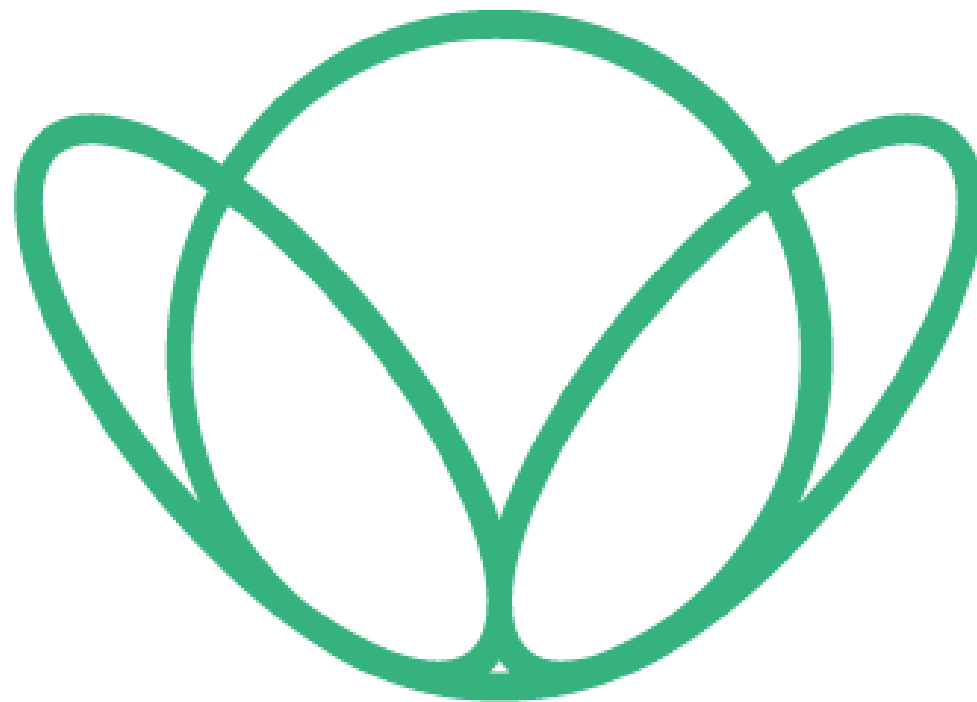
④職員の健康維持

- ・雇用時検診、夜勤対象者検診（年2回）、職員検診（年1回）を実施。
- ・予防接種の実施
- ・腰痛予防の取り組み（アンケートの実施・研修会）
- ・メンタルヘルスケアの取り組み



⑤整備許可申請の提案を遵守していくための取組

- みずほ会理念の考え方を職員と共有する
- 家族、地域住民やボランティアとの日常的な交流を行っていく
- 職員研修を継続して行い、介護スキルの向上を図る
- 職員の資格取得支援を継続する
- 職員の働きやすい職場環境を整える。



医療法人みずほ会

.....
~ご清聴ありがとうございました~
.....